

多くの歯科医師・歯科衛生士の方々が、今この時も全国各地で予防歯科に取り組んでいます。「LION Dent. Free」では、時代の趨勢となつている予防歯科への潮流の中で、日々活躍されている歯科医師・歯科衛生士の方々のさまざまな取り組みについてご紹介します。

人口39万人の長野市は長野県の県庁所在地であると同時に、「牛にひかれて・・・」で有名な善光寺の門前町として、初詣だけでも42万人もの善男善女が訪れる街でもあります。今回訪問した谷口歯科医院は長野駅から徒歩で5分、商店街と住宅街のはさまにありました。1969年(昭和44年)に開業して今年で41年目を迎える谷口歯科医院。患者さんのことを考え、口の中だけでなく全体(トータル)から一人一人を診ていけるよう、独自のシステムで患者さんをサポートしています。今年68歳、ますます元気な谷口威夫院長に、歯科医療に取り組んで来られた歩みと、患者さんへの取り組み、歯科医師としての心構えなどについて伺いました。

## むし歯の洪水に悲鳴を上げて 予防歯科の道に

私は長野県の上田出身です。東京医科歯科大学で学び、卒業後すぐに戻って長野市で開業しました。

学生の頃から予防歯科研究会に所属して、無歯科医村に行つて診療したり、調査活動をする研究会にも5年間在籍していました。

長野市で開業して間もなく、すさまじい「むし歯洪水時代」に遭遇しました。朝から子供の患者さんで待合室がいっぱいになりました。当時はもつと小さな医院でしたので患者さんが入りきれない状況が続きました。いくら治療してもきりがなく、この状況はいつまで続くのだろうと思つたものです。

そのとき、治療も大事だが、どこかでこの洪水の蛇口を閉めなければならぬと思ひ、むし歯予防運動を始めました。これが「できるだけ歯を抜かない、予防に力を入れる」という当医院の基本方針の出発点です。

患者さんのお母さんから希望者を募り、院内でむし歯予防教室を行つたり、妊婦対象の教室も開きました。さらにその運動が地域へ広がり、市内各地にむし歯予防のお母さんたちの会が広がりました。私が定期的にむし歯予防の話をしているのを見て賛同した若い先生たちも参加してくれました。

## 歯科医師会の活動に広がった むし歯予防の会

当時、私は長野市歯科医師会でも活動していましたので、やがて、母の会を歯科医師会の事業としてやってみなしかと話がありました。私が歯科医師会の公衆衛生担

# お口の健康をトータルで診て41年。 予防歯科の心を 若い世代に引き継ぐ

長野県長野市 谷口歯科医院

院長 谷口 威夫 先生





緑のベランダに面した暖かみのある診察室

当理事となり、16人ほどの医師でチームを作り、市内のいろいろな地域へ出かけて啓発活動を行いました。盛んな時には、むし歯予防のお母さんたちの会も10か所を超えていました。お母さんたちも子供のむし歯に危機感を持っていましたから、自主的に会を作り協力してくれました。ターゲットは3歳以下の子供。3歳までに予防をしつ



<上>待合室  
<下>谷口歯科医院外観



### いち早い歯周病予防への目覚め

かりやつておけば、成長しても口腔内のいい状態が継続する。という現在の常識は、当時はまだ明らかになっていませんでしたが、とにかく3歳児までしっかり予防できれば、その後むし歯で苦しむことはないと考えたからです。運動の中心はシュガーコントロールとブラッシングです。

現在は歯周病専門医や指導医であったり、臨床歯周学会の認定医だったり、歯周病を専門とする歯科医師の方々が目立っております。しかしながら、昔はまだそういった状況になかった中で、むし歯予防を手掛けてきた自然の流れとして、私は早くから歯周病予防に関心を持っていました。1975年にW・H・ゴールドマンという有名なアメリカ

の大学教授が来日されて、歯周病治療の講演をされました。当時の日本で口腔疾患と言えはむし歯で、歯周病はまだ注目されていなかった時代です。講演に集まったのはほとんどが大学の先生で、その他の参加者は先進的な開業医の先生が数名しかいませんでした。当時、私は「ゼロの会」というスタディグループに参加しており、そのメンバーの歯科医師と歯科衛生士で講演を聞きに行きました。その頃は何でも新しいことに夢中でしたから。まさにアメリカの予防医学が日本に入ってきた瞬間に立ち会うたことになりました。

### 全国に先駆け健康診断に 歯科導入を実現

1982年から1988年まで、長野県歯科医師会で公衆衛生を担当し、成人歯科、学校歯科も含め、政策立案業務を担当していました。

すでに長野市と伊那市に県立総合健康センターがあり、私たちはその健康診断に歯科を加える運動を展開していました。その成果もあつて1988年10月に歯科の検診が加わりました。おそらく長野県が全国で初めてだったと思います。そこでは検診だけでなく、午後には2人の歯科衛生士によるT・B・Iをはじめとする保健指導も行うようにしています。そのきっかけになったのは私が企

谷口 威夫 (たぐち たけお) 先生 プロフィール  
 1967年 東京医科歯科大学卒業、同大学口腔外科に在籍 / 1969年 谷口歯科医院開業 / 2007年 日本歯科医学協会会長賞受賞  
 日本歯周病学会認定歯周病専門医・指導医、日本臨床歯周病学会認定医・指導医、日本顎咬合学会認定医・指導医



画した「お年寄りの歯の健康コンクール」でした。当時の平均寿命は70歳でしたが、70歳以上で歯の健康な人のコンクールです。次の年あたりからあちこちの都道府県で同じような企画をするようになりましたが、あの頃はお年寄りには歯がないのが当たり前でした。コンクールで優勝された方も、意識的に歯を大事にしてきたわけではなく、たまたま自分は歯が残っていたというだけの人だったのですが(笑)。

その頃は8020運動が達成できるような時代が来るとは夢にも思いませんでした。そんな活動が評価されたのでしょうか。予防歯科への貢献、

地域への貢献ということで、2007年に日本歯科医学協会会長賞をいただきました。

### 口の中全体を見て責任を持つ

谷口歯科医院では、口の中の検査、歯周病の検査は患者さん全員、一人残らず行います。それは、私が開業以来やってきた、お口の中全体を必ず見る、そして責任を持つことの一環です。1975年ごろと記憶していますが、二口腔単位の治療、一生のホームドクターを合言葉に、当時の仲間と勉強してきました。東京の平井で開業していた織家勝先生が提唱されたアポイントメントシステム時間の予約を含め、治療期間・総治療費まで予約してスケジュールどおりに行うという画期的なシステムに賛同して先生にもお会いしました。長野での実施は難しいと言った私に対し、逆に先生に励まされたことを覚えています。

いきなり一口腔単位が大事だとか、

### 家族ぐるみを担当する 歯科衛生士

ファミリードクターと言っても、話を聞いてもらえません。ですから今でもCT撮影や細菌検査などをして、とにかく一生懸命患者さんとお話をしています。初診の患者さんには、まず受付の担当者が話をし、その後検査をし、さらに私がカウンセリングをしています。昔は1時間から2時間もカウンセリングに時間を費やしました。それで初めて患者さんが納得してくれます。そうでないと患者さんは離れてしまいます。昔は7割は離れていってしまった。『結構なお話ありがとうございました。』ただ私はそんなに時間がないので『つて。だから、なんとか患者さんを繋ぎとめて、しかも自分の意思を理解して欲しい。それにはもう患者さんにお話するしかない。ですからとにかく話して聞いて頂いて。だから今、おかげさまで毎日忙しくしています。』

歯科衛生士は6名いますがちよと不足気味です。



明るい吹き抜けをもつ診療室



お年寄りでも安全な2階診療室への階段昇降機

できればもう一人か二人欲しいのですが、医院が狭くてこれ以上は入れません(笑)。歯科衛生士の役割は、昔はシユガーコントロールなどのむし歯予防、食生活指導が主でしたが、今は歯周病を中心にブラッシングと食生活指導です。一人の健診が1時間ほどかかります。患者さんごとに担当の歯科衛生士も決まっています。患者さんご家族が来院



すれば同じ歯科衛生士が担当しています。  
今、ユニットは7台ありますが定期健診の患者さんは  
しっかりと固定化していて、新患も来ますから患者さんが  
来院して診療を受ける間隔が長くなりがちです。

〈上・下とも〉  
毎週行われるスタッフの勉強会。  
他医院から参加する人もいる。



## 「患者さんのための診療」が 私の信念

患者さんのためだけを思って診療して、患者さんを絶  
対に見捨てない。それが私の信念です。経営的には開業  
の時からトータルとして暮らしていければいいというのが  
私の考え方です。普通の生活ができ、子どもも育てるこ  
とができましたし、それでいいと思ってやってきました。

しかし、40年以上歯科医院をやってきたのだから定期  
健診の患者さんがもっと来てもいいはずだと思っていま  
う。開業以来、  
診てきた患者  
さんの数は1  
万人を超える  
と思いますが、  
定期健診に來  
てくれる患者

さんは現在1千人くらいですし、痛んだりすれば来てく  
れる患者さんも4〜5千人はいるでしょう。比率から見  
たら少ないと思うのは贅沢なのでしょうか(笑)。

## 予防歯科の新時代の幕開けを実感

今、アメリカで歯周病を勉強してきた息子が副院長  
として一緒に働いています。歯周外科とインプラントの専  
門医で、今年の日本臨床歯周病学会の全国年次大会で  
ポスター最優秀賞をいただきました。これは重度の歯周  
病患者さんに対して歯科衛生士を中心に基本的な処  
置を行い、再生療法に適応部位に対して、息子が外科  
的な再生療法を行ったもので、当院の現在のコンセプト  
を集約した成果でした。



歯科用の  
CTスキャン

息子が当院に参加することになって、「できるだけ患  
者さんのケアと基本治療で対応し、生涯歯の健康を保  
つ」という私の今までのやり方の上に、再生療法あるい  
は欠損部位にはインプラント  
というプラスチックを導入す  
ることで、患者さんの歯を守る  
方策をさらにもう一歩進化さ  
せた診療形態をとることがで  
きるようになりました。患者  
さんには、より短期間で理想  
的な結果を提供できることに  
なり、次の時代に向けた予防  
歯科の領域がぐんと広がった  
ことを実感しています。